



もりまち

令和2年(2020年)5月
第83号

議会だより



写真／かわせみ湖のコブシ



みなみざわここみ

題字 森中学校 南沢心美さん（三倉地区）

《主な内容》

当初予算	2～3	ページ
委員会報告	4～5	
一般質問	7～9	
環境に対する町の取組について	他	
組合議会報告	10	
政策提言について	11	

発行 静岡県森町議会

当初予算

78億円の積極予算

太田町政二期目の決意

森町議会は、3月定例会を2日から24日までの会期23日間で開催し、当局から提出された当初予算、条例など41議案を審議しました。

一般質問は「環境に対する町の取組について」など6人が質問しました。
(7～9ページに掲載)

一般会計当初予算は、78億8400万円となり、前年度の当初予算と比較して3億9500万円増加し、近年にない積極的な予算となりました。

歳入は、総務費が「三倉・天方地区への光ファイバー網整備」などにより、2億5715万円(26・1%)の増、農林水産業費が「ため池耐震点検」などにより、3873万円(19・5%)の増となりました。

歳入は、町税が0・2パーセント増の23億5213万円。地方交付税6000万円増、町債は1億9140万円増となりました。

(いずれも万円未満四捨五入。比較は、前年度当初予算との比較)

高度無線環境整備推進事業
三倉・天方地区における光ファイバー網を整備する
(1億6000万円)

通学路安全対策事業(新田赤松線)
新田赤松線改築工事(測量設計業務委託ほか)を進める
(3500万円)

保育コンシェルジュ事業
保育を希望する保護者の相談に応じ、保育サービス等の情報提供を行う
(233万円)

若年がん患者等支援事業
若年がん患者の生殖機能温存治療、医療用補整具購入等を助成する
(67万円)

通学用バス運行業務委託事業
中学校統合に伴う町営バス大河内線の直行運行、及び自宅からバス停まで遠距離の児童生徒を送迎する
(328万円)

当初予算における主な歳入・歳出の推移

(万円未満四捨五入)

歳入項目	2年度	31年度	30年度	29年度	28年度
町税	23億5213万円	23億4680万円	23億1006万円	23億4579万円	23億5899万円
地方交付税	16億1000万円	15億5000万円	15億0000万円	13億7000万円	13億3000万円
繰入金	6億8511万円	6億3612万円	5億4809万円	4億2796万円	2億6656万円
国庫支出金	6億1983万円	5億7892万円	5億6410万円	6億2922万円	5億4929万円
県支出金	5億5169万円	5億2040万円	4億6727万円	4億3129万円	3億9534万円
町債(借入金)	7億1210万円	5億2070万円	5億7120万円	6億2430万円	3億8020万円

歳出項目	2年度	31年度	30年度	29年度	28年度
民生費	20億5536万円	20億2280万円	20億3872万円	20億6946万円	19億5371万円
総務費	12億4407万円	9億8692万円	9億1310万円	8億5786万円	8億288万円
衛生費	10億822万円	10億142万円	10億126万円	9億9269万円	9億9700万円
教育費	9億6487万円	9億708万円	9億1539万円	8億7483万円	8億1334万円
土木費	7億4003万円	7億968万円	6億9324万円	7億3371万円	3億2347万円
商工費	2億5664万円	2億8988万円	1億8242万円	9748万円	8431万円
農林水産業費	2億3693万円	1億9820万円	1億7642万円	1億8951万円	1億6769万円

空き家財道具等処分費用補助金
空き家の家財道具等の撤去処分費用を補助する
(50万円)

新たな魅力創出発信事業
スマホによるアプリを活用し、町内観光周遊を図る(小國神社・大洞院等)
(500万円)

体験の里体験施設改修事業
アクティ森のテニスコートを全面改修する
(1360万円)

農村地域防災減災事業
町内の「防災重点ため池」の耐震性等の点検調査をする(5ヶ所)
(3600万円)

公立森町病院会計繰出金
森町病院への繰出金
(3億4000万円)

公園施設整備事業
第二公園(栄町)の複合遊具を更新する
(1482万円)

森町茶業史編纂事業
森町の茶業史を編纂する
(46万円)

条例

森町手数料条例の一部を改正する条例について

国のマイナンバーカード活用推進に伴い、通知カードの再発行が廃止されたため、再交付手数料の項目を削除する



マイナンバーカード

森町森林環境整備促進基金条例について

森林環境譲与税を受け入れ、森林の整備に関する施策等に要する費用に充てることを目的に、基金を設置する

森町営住宅管理条例の一部を改正する条例について

町営住宅入居に際して、保証人の選任規定を廃止する。また、入居者の修繕費用負担などの見直しを行う

一般議案

辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定と変更について

大府川、上野平、大河内及び亀久保地区において、光ファイバー網整備に辺地債を活用するため、総合整備計画を策定する

また、三倉大久保地区の総合計画に光ファイバー網整備事業を追加し、辺地債を活用する

※辺地債：地方公共団体の借入方法の一種で、辺地地域とその他の地域の格差是正を図ることを目的として行われる公共施設の整備や情報通信基盤整備等に対して充当される(元利償還金の80パーセントが交付税措置される)

森町道路線の廃止と認定について

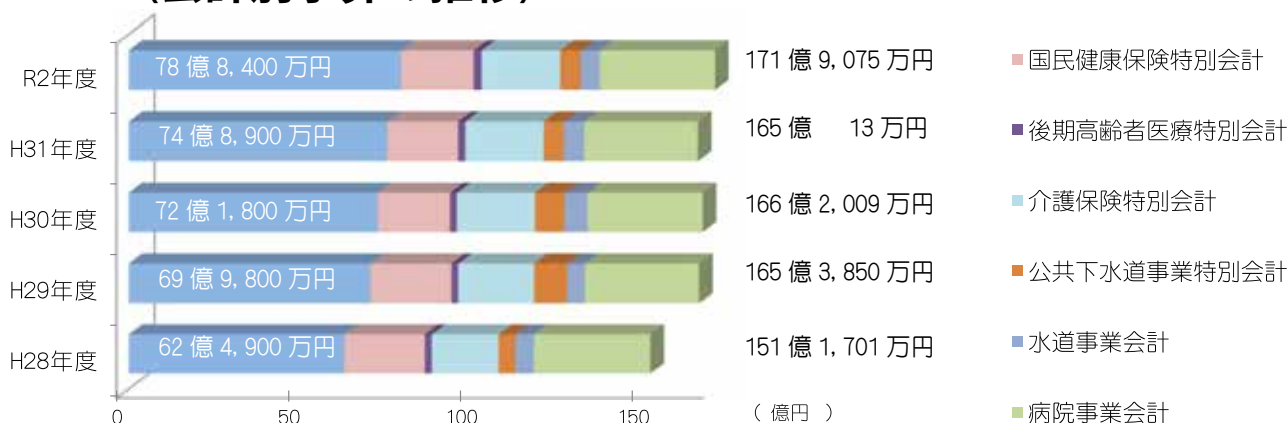
鴨谷東組線の北谷田トンネルの廃止に伴い、三反田(さんたん)内線と院内線の2つの路線に分ける

一宮圃場25号線の終点の位置を変更する

公の施設の指定管理者の指定について(森町小規模保育所)

保健福祉センター2階の森町小規模保育所の指定管理者に、引き続き「子育てサポートわらべの会」を指定する

〈会計別予算の推移〉



第一常任委員会は3月6日から3月11日まで、付託された案件の審議を行いました

第一常任委員会

Q 高度無線（光ファイバー）環境整備推進事業の町負担は大きくないか

A 総事業費は2億9800万円、国庫補助は6000万円、事業者負担が7800万円、森町負担が1億6000万円となる。この事業は、交付税措置8割の辺地債を活用するので負担は軽くなる。

Q 病院事業のエレベーター改修はどのようなものか

A 病院を利用される方が使うエレベーターで開設当時からのものであり、令和2年12月に部品の供給もなくなることから、改修するものである。

Q 保育コンシェルジュとはどのようなものか

A 子ども・子育て支援事業の中の利用者支援事業・特定型になる。国・県の補助を受けて町が配置する相談員である。保育を希望する保護者の相談を受け、希望に応じた情報提供などを行う。

Q 病児・病後児保育事業の内容と受け入れ先は

A 袋井市月見町の認可外保育園「ひだ

まり保育園」に病児・病後児保育室「ぬくもり」が併設されている。

4月より森町の子供も利用可能となり、利用者の負担は1日2千円となる。

Q 生活支援体制整備事業は今後どうなるか

A 令和2年度は一宮地区をモデル地区として民生委員・町内会役員など住民が中心となり、地域の特性や課題を情報共有し、住民同士の支え合いについて考える協議体をつくり、年一回の会議と誰でも気軽に集まれる居場所等を開催していただく。

Q 宮園小学校校舎外壁のはく離部改修は早く改修すべきだが、工事はいつか



宮園小学校校舎の外壁はく離部を確認

A 令和2年度に調査をして、補正予算を上程し、年度中には取り掛かりたい。

Q 天浜線一宮駅の駐輪場改修だが、どのような材料で、規模はどれほどになるか。駅舎の景観にあつた形、色等考えているか



天浜線一宮駅の駐輪場

A 規模は現在の大きさと、軽量鉄骨・左右片屋根、黒褐色を考えている。

Q 天竜浜名湖鉄道経営助成基金の目的は

A 自然災害が頻発する中で、今ある経営資金を災害対策に充ててしまつと計画されている施設整備が先送りになる。これを回避するために基金の積み増しを行う。

Q 通学用バス運行業務委託料の説明を

A 中学校統合に際し、通学手段としてのバス運行見直しを行うものである。

1点目は、現在森林組合前バス停を終点としている大河内線を、森中学校入口バス停まで通学用に直行運行する。

2点目は、秋葉線バス路線から離れた田能、大久保、中野地区の生徒の通学手段として、一の瀬バス停まで送迎する、この2つの取り組みに委託料を支払うというもの。（補正予算が上程され、終点を一の瀬バス停から、森林組合前バス停に変更した）

陳情

「児童生徒専用スクールバスに係る陳情」は、賛成少数で不採択となりました。

不採択理由

町では、秋葉線バス路線から離れた田能、大久保、中野地区の生徒の通学手段確保について、地元の意見を踏まえて様々な検討をしてきたと、議会は認識している。

主要交通機関である秋葉バスの維持、町営バスの運行、町内全ての児童生徒の通学手段の公平性や町全体の財政などを考慮すると、専用スクールバスの運行は難しいと判断した。

第二常任委員会

Q 新田赤松線整備について、費用対効果は

A 都市計画決定されてから50年ほど経過している。残り未整備区間が830メートルとなっており、天宮区画整理地から道路を繋ぐことで、街中における歩行者の安全確保、空き家・空き地の流動化など活性化に繋げていく。さらに沿線には防災拠点となる学校や公共施設があり、緊急時における道路ネットワークとしても効果があると考えている。

Q 郵便局交差点改良を優先すべきと考えるが

A 郵便局交差点改良の必要性については認識しているが、現時点では、行き止まりを解消し、交通の流れを作ることを優先したい。今後、全体計画の中で検討していきたいと考えている。



新田赤松線整備予定箇所を確認
(開運町・明治町の境)

Q 森町体験の里について、体験の内容や経営・運営を検討し、指定管理料を減らす考えは無いのか

A 体験の総人数や入場者数は減少しているが、年間8万人が利用しており、小中学校の授業での利用など、ニーズはあると考える。指定管理料は、理想は、入場料・体験料だけで経営するのが望ましいと考えるが、そこには至っていない。公園的要素もあり、森町の観光拠点として特色を生かした、いいの場にしていきたい。

Q 新たな魅力創出発信事業委託料の内容と、アクティ森への経済効果は

A 共同通信デジタルによるメディア発信力を活用して森町をPRするプロモーション事業である。アクティ森のレストラン新メニュー開発や、スマホによるアプリを活用したスタンラリーの企画を、メディアを使って大々的に発信してきた。

事業の効果としては、アクティ森の前年比体験者数9・4パーセント増、売上10パーセント増、レストランについては食数37・7パーセント増、売上も24・7パーセント増と伸びている。令和2年度は町全体の観光施設を、アプリを使って周遊してもらうことと、PRキャラクターとして、コモコモを一つのアイコンとして活用していく。

Q 更新する窓口端末機等はどうなものか



「謎キャラ」コモコモ

A パスポートの交付用窓口端末機が、耐用年数が来たため更新する。

また、窓口申請書作成支援システムについては、マイナンバーカードを利用して申請書の手続きを簡略化し、同時に本人確認もできるので、混雑緩和に期待できる。

Q 空き家財道具等処分費用補助金の補助率について伺う

A 町としては初めての補助制度で、補助率は2分の1で上限は10万円である。家財道具片付けについては、個人の持ち物なので個人にも責任を持つていただく考え方もあり、所有者と行政それぞれ負担をしながら移住を進めていく考えで制度をスタートさせる。

今後、実績や動向を見ながら、補助率、補助額、予算額について検討していく。

公共下水道事業

Q 汚水管渠築造工事の工事場所はどこか

A 天宮地内（開運町、川久保の一部）瀬入川右岸8・88ヘクタールを予定している。

上水道事業

Q 将来人口が減少すること、大量使用している施設である最終処分場の撤入期限が近いことから、収入が減ると考えるが、将来的な水道経営についての考えは

A 現在使用している配水管は非常に古く、更新時期（法定耐用年数38年）を迎えている。また、収益においても減少となる予測の中、更新費用が一気に増加することになるため、森町水道事業経営戦略にあるように、昭和54年度以降改定していない水道料金について、令和5年度頃を目途に検討していきたいと考えている。

第二常任委員会は3月6日から3月10日まで、付託された案件の審議を行いました

3月定例会の審議結果 41議案すべて可決

※賛否の分かれた議案、陳情は以下のとおりとなります。 (○=賛成 ×=反対)

議案、陳情名	山本俊康	西田彰	鈴木托治	中根幸男	吉筋恵治	岡野豊	中根信一郎	加藤久幸	岡戸章夫	出口裕	川岸和花子	結果
令和2年度森町一般会計予算	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
児童生徒専用スクールバスに係る陳情	×	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	不採択

※議長（亀澤進）は採決には加わりません。

討論

一般会計予算

反対 長きに渡って塩漬けされた新田赤松線の復活予算は、時代に逆行しており、町長のレガシーづくりではないかと疑っている。

天浜線一宮駅の駐輪場新築は、早急の工事の必要性は認めるが、天浜線の文化的性質と相容れない仕様となっている。工事金額も高く、町民ファーストの精神に立ち返っていただきたい。体験の里の指定管理料も、相も変わらない運営である。30年の節目を迎えるが、一度立ち止まって、管理運営について十分に検討する必要がある。

(鈴木托治)

賛成 三倉・天方地区、光回線未整備地区の対策としての高度無線環境整備推進事業は、地域からの要望に応え、整備に取り組む姿勢は評価できる。

町道新田赤松線は、残りの未整備区間が830メートルで、緊急時における道路ネットワーク等の整備が必要だ。児童生徒の通学用のバス使用料も、地域住民からの要望を受けての予算である。

(岡野豊)

反対

令和2年度当初予算は過去にない予算規模である。

歳出において、総務費が突出して増となっているが、光ファイバーの活用効果と地域づくりを共に実践しながら、学校統廃合を考えるべきである。陳情に挙げられた専用スクールバスの運行は、令和3年度予算には実現させるべきだ。

また、共同通信デジタルへの委託料、新たな魅力創出発信事業は、すでに使われた2700万円の検証も定かでない、今後森町全域に広げることだが、直ちに中止するべきであり、実績を述べているが、これ以上税金を注ぎ込む意味が分からない。

(西田彰)

賛成

太田町政二期目として、第9次森町総合計画の将来像の実現に向けた積極的な取組となっている。

三倉・天方地区光回線未整備地区への高度無線環境整備推進事業、中学校統合に伴う通学時交通費の補助、空き家財道具等処分費用補助金など、地域の声を、事業として計上されている。保育コンシェルジュの配置や、病児・病後保育への対応など子育て世代への対応も進んでいる。また、産業立地事業費補助金等、積極的な企業誘致や雇用確保に向け、引き続き計上されている。

(岡戸章夫)

補正予算

令和元年度一般会計補正予算(第6号)

小中学校ネットワーク設備整備事業

GIGAスクール構想に基づき、高速大容量の校内通信ネットワーク整備を実施し、児童生徒一人一台端末の整備を目指す

(1億2800万円)

令和2年度一般会計補正予算(第1号)

商工振興費

新型コロナウイルス感染症対策として、中小企業の資金繰りを支援するための利子補給金

(120万円)

通学用バス使用料

田能・大久保・中野を回る無料通学用バス(夢街道線)の新設に伴い、三倉・天方地区の全ての児童生徒の通学費を全額町が負担する

(180万円)



鈴木 托治

環境に対する

町の取組について



鈴木

地球の温暖化が急速に進行している。これ以上進めば生命の存続さえ危惧される。一刻と迫る危機に對しての取組について伺う。

①マイバッグ運動の啓発について

②職員のノーカーデーの実施は

③庁舎内のクーラーの規制は

町長

地球温暖化防止の啓発活動として、新エネルギー機器等導入促進のため、太陽光発電の設置に對し、補助金を交付し、さらに温暖化防止の啓発活動を実施している。

①マイバッグの取組については、一定の成果が見られるが、再資源化やリサイクルへの啓発に取り組んでいる。

②ノーカーデーについては、効果のあるものが検討した上で考えていきたい。

③午後7時に冷房をとめ、温暖化防止に努めている。

森林(森)の再生について

鈴木

森林再生のために人工林の伐採(建築材への使用)とその場所に雑木類(コナラ・ブナ・クヌギ等)の広葉樹を植栽し、豊かな森林を作る計画は。

町長

人工林の大半が伐採適期を超過しており、今後、積極的な利用が望まれる。自然環境保全の観点から広葉樹整備を推進することは一つの手法であると考えている。

出生祝い金を増額に

鈴木

森町の人口減少も他地区と同様に深刻である。出生祝い金を第三子以降、50万から100万円にしてはどうか。

町長

森つ子出産祝い金を大幅に増額するよりも、子どもを持つ親が望む環境整備を図り、子育てしやすい環境を整えることで出生率の向上に努めたい。

町政を問う

～一般質問～



加藤 久幸

停電予防の

事前伐採について



加藤

平成30年9月に発生した台風24号により、町内でも倒木による電線の断線があり、停電が長期化し、生活に多大な影響が生じた。予防措置として断線の恐れのある樹木を事前に伐採し、停電箇所を減らすことにより、復旧までの時間を短縮できると思われるが、町の取組について伺う。

町長

これまで電力会社が実施してきた保安伐採は電線等に接触する枝葉の伐採で、伐採範囲は限定的であったが、予防伐採は災害時の停電被害の防止や早期の道路復旧を目的として、倒木により被害の原因となる可能性のある樹木を伐採するものである。

今後、県から支障木予防伐採に関する市町への支援策が具体的に示された場合には、町においても、周辺市町の推進方法や費用分担などを参考とし、道路管理局や山林整備部局、防災部局などが連携し、検討したいと考えている。



電線に掛かる倒木

学校教材の保護者負担について

加藤

公立小中学校の各教科の費用は「公費」と保護者から別途徴収する「私費」で成り立っていると思う。なるべく保護者の「私費」の負担を減らすための軽減策について伺う。

教育長

保護者の負担が増えないよう教材・教具の精査・選定や副読本の支給、予算の配分を行っている。今後も就学援助制度の保護者への周知や保護者負担の軽減に配慮したいと考えている。



岡 戸 章 夫

新たな魅力発信事業の 評価と今後について



岡 戸 事業の背景とこれまでの投入金額は。

町長 森町を戦略的にプロモーションしていくため、発信力のある共同通信デジタル社と連携して進めてきた。アクティ森のレストランメニューの開発等に188万円、キャラクター開発(コモコモのデザイン・製作費等)に453万円、ARアプリの開発等に606万円、プレスリリース・広告費等に359万円、その他人件費諸経費等に909万円となっている。

岡 戸 評価と課題についてどうみているか。

町長 テレビや雑誌、ウェブ配信など436部署にとり上げられた。広告効果は4700万円と試算され、観光誘客に一定の効果があつたと考えている。課題は、PR発信に重点を置き、受け皿体制の整備が不足したことや、町内や職員へ向けての情報発信不足があるため、改善していきたい。

岡 戸 令和2年度予算に継続事業として、500万円計上されているが事業内容は。

町長 ARアプリを活用したスタンプラリーを全町に拡大し、観光客の周遊を図りたい。

また、コモコモのキャラクターをアイコン化し、よりPRに活用していきたい。財源は財団法人静岡県市町村振興協会の助成金を充てる。

岡 戸 今回のARの様な先進技術を含む事業には、アドバイザーが必要ではないか。

町長 令和2年度の事業の中では想定していないが、今後の新しい事業の中では、必要となる場合も考えられる。



東京での記者発表の様子

町 政 を 問 う ～ 一 般 質 問 ～



中 根 幸 男

マニフェストの 実現に向けて



中 根 町長は、所信表明で、マニフェスト(選挙公約)の実現に向けて、人・自然・歴史を次代につなぐ「5つの取り組み」に沿って、力強く大胆に各種事業を実行したいとのことであるが、今後4年間の行財政運営の考え方等について伺う。

町長 二期目を迎え、新たな決意と情熱を持って森町のさらなる発展と活性化のため、第9次総合計画に掲げるまちの将来像「住む人も訪れる人も心とらぐ森町」の実現に向けて、全力で取り組む所存である。

特にこれまで取り組んできた施策をさらに展開し、森町の豊かな自然や連続と継承されている歴史・伝統文化、人々の安定した暮らしを守り、今後も自立した活力あるまちを維持していく。

行財政運営については、全国的に進む急激な人口減少・少子高齢化により、労働力の減少や地域活力の低下、年金や医療費等社会保障費の増加など、様々な影響が出ている。

このため、時代背景を踏まえた行財政運営の見直しや、ICTを活用した行財政運営の推進、民間との連携や町民目線に立った行政サービスの提供と協働のまちづくりなど、施策の推進とともに財政の健全性の維持を両立していくことが重要であると考えている。

今後も、第4次森町行財政改革大綱に基づき、行財政改革の推進を図ることで、自立した持続可能な行財政運営に取り組んでいきたい。

【その他質問事項】

・民間事業者の開発を含めた住宅地造成

・基盤整備やブランド力向上など農林業の振興

・森林環境譲与税を活用した森林の保全

・公共下水道事業の取り組み



西 田 彰

学校統廃合で見えた 森町の課題

森町の課題



西田

令和3年4月には三倉、天方、森の小学校が統合され、三倉地域の在り方が大きく変わると思う。要望のあるスクールバスの運行は「安全で住みよいまちづくり」につながる。森町地域公共交通計画の見直しは。

町長

平成27年11月に議会から見直しの要望書をいただいた。実現は難しいとお答えしたが、地域公共交通会議など議論を進める中で、平成30年3月に新たな「地域公共交通計画」を策定した。

計画は、「利用者を増やす」「利用しやすくする」「利用が困難な人を支援する」の3つの事業に分けている。免許返納者への手数料助成や公共交通利用促進に向けた取組、児童通学費助成、重度障がい者へのタクシー券交付や公共交通利用券助成などがある。

西田

デマンドタクシーの運行には秋葉バスがネックになっているが、なぜ試験運行をしないのか。

企画財政課長

秋葉バスは広域移動手段の要で、これを寸断することは難しい。デマンドタクシー導入は他市町の状況など情報の収集、研究を進めているが、馴染みのない制度で、タクシー事業者には新たな資格が必要など、実現には課題がある。

西田

スクールバス運行の対応は。

町長

中学校の統合準備会でも生徒が安心、安全に通学出来るよう検討した結果、バスの便数の確保、バス停から遠い場合はNPOによる送迎、バス代を全額町が負担するよう制度を見直すなど、既存の交通機関でスクールバスの代替えは出来ると考える。小学生については、中学生の状況を見ながら、安全確保の取組を進めたい。

【その他質問事項】

マイナンバーカードについて

町政を問う

～一般質問～

山本

「安全で住みよいまちづくり」に向け、災害に強い町を目指して次のことを伺う。

国は洪水対策としてダムの事前放流を進めているが、太田川ダムはその機能がない。濁水問題もあり二つの対策として濁水バイパスを県に提案してはどうか。

一方で、ダムの洪水調整は14回の実績がある。豪雨時の情報提供に努め、安心安全な町であることをPRしてはどうか。

町長

濁水バイパスは国の動向を注視し、状況を見て県に要望したい。ダムの調整機能により、安心安全な町であることを積極的に広報していく。

山本

近年大型台風や豪雨が頻発し、土砂の堆積により排水能力が低下している水路の浚渫など災害防止対策が必要と思うがどうか。

町長

豪雨時の水路増水による圃場等の冠水防止対策として、新



山 本 俊 康

災害に強い町づくりと 積極的な企業誘致を



堀川や一宮小川の堆積土砂浚渫のほか、各町内会における必要な排水路の整備や浚渫を2年度で対応する。

山本

防災・減災対策を計画的に進める必要があると思うが。

町長

事業規模が大きく、維持管理上特に重要な河川の浚渫等は、新たに創設された「緊急浚渫推進事業」により対策を講じる。小規模水路は維持管理予算で、不足する場合は補正で対応する。

積極的な企業誘致について

山本

新東名IC周辺に企業が注目している。このチャンスを最大限活かす取組が必要である。誘致を進める町の人材、スタッフを揃えることが必要では。

町長

IC周辺の相談が多くなっている。1名増員し、体制を強化していく。

組合議会報告

※組合議会とは、複数の市町等が、行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置する組織です
任期は、2019年4月から2年間で
金額は万円未満四捨五入



中遠広域事務組合議会

粗大ごみ処理及び一般廃棄物最終処分事業を、磐田市・袋井市・森町が共同で行う。

令和2年度予算額は

歳入	10億1159万円
歳出	10億1159万円

森町の分担金は、5486万円となりました。

本年度は最終処分場のあり方の方向性を議論し、決定する予定です。

太田川原野谷川 治水水防組合議会

太田川流域の磐田市・掛川市・袋井市・森町が、国・県への要望や水防演習などを行う。

令和2年度予算額は

歳入	640万円
歳出	640万円

森町の分担金は、86万円となりました。

国・県への要望事項

- ①治水関係予算の拡大確保
- ②太田川水系の河川改修事業の促進
- ③太田川堤防の維持管理予算の拡大確保
- ④河川堤防の粘り強い構造への改良促進

袋井市森町広域行政組合議会

袋井市と森町が共同で行う、消防・ごみ処理・尿処理・火葬の事務を行う。

令和2年度予算額は

歳入	32億5700万円
歳出	32億5700万円

森町の分担金、負担金は、5億4040万円となりました。

中東遠看護専門学校組合議会 東海アクシス看護専門学校

磐田市・掛川市・袋井市・御前崎市・森町の5市1町が共同して、中東遠地域の医療機関への看護師の充実を目指す。

令和2年度予算額は

歳入	3億4000万円
歳出	3億4000万円

森町の分担金は、1720万円となりました。



東海アクシスHPより

東遠学園組合議会

発達支援及び障害福祉事業を、菊川市・掛川市・御前崎市・森町が共同で行う。

令和2年度予算額は

歳入	7億1942万円
歳出	7億1942万円

青年・児童・通園・地域福祉に対する森町の分担金は、2053万円となりました。

養護老人ホームとよおか 管理組合議会

養護老人ホームとよおかは、磐田市・浜松市・森町で構成される管理組合が、社会福祉法人天竜厚生会を指定管理者として指定し、運営しています。

令和2年度予算額は

歳入	1億1818万円
歳出	1億1818万円

森町の分担金は、929万円となりました。

養護老人ホームとよおかは、令和2年度をもって閉館の予定です。

平成30年度政策提言の 検証評価を実施

議会では、人口減少問題を大きなテーマとし、町民の皆さまとの意見交換を実施してきました。その意見等を踏まえて、平成30年6月、町長に対して政策提言を行い、その実現を求めました。

政策提言は、提言すれば終わりではなく、その後担当局が提言をどう受け止め、どう施策に反映させたか、1年以上経過後に検証評価を行うことにし、このたび平成30年度に提出した政策提言の検証評価を議員全員で実施しました。

	検証評価の基準	評点	平均点
A	必要な取組みを着実に実施。その結果、目標達成若しくはほぼ達成	5	4.5 以上
B	必要な取組みを着実に実施。その結果、達成に向けて具体的成果が見られる	4	3.5 以上
C	必要な取組みを概ね実施。その結果、一定の成果が見られ始めている	3	2.5 以上
D	必要な取組みに着手しているものの、目標達成までには、なお課題が残されている	2	1.5 以上
E	取組みに向けた検討に着手、目標達成に向けた具体的展開が今後の課題である	1	1.4 以下

※検証評価については令和2年2月12日時点の評価になります。

提言1 認定こども園の推進について

・検証評価 【E評価】 評点1.42

D:5人 E:7人

未就学児童への保育・教育の取り組みに多様な要望がある事を把握し、他の自治体で実施している認定こども園への視察調査も行い、課題を見出している

提言2 企業誘致への取組について

・検証評価 【E評価】 評点1.42

D:5人 E:7人

取り組みに着手し進めていることは認識しているが、なかなか契約に至らない問題課題等の整理や解決へのアクションが見えてこない

提言3 移住定住の促進について

・検証評価 【E評価】 評点1.0

E:12人

他市町村と比較して、独自の施策もなく、移住定住への訴求度が随分と不足しているように見える

提言4 デマンドタクシー導入促進について

・検証評価 【E評価】 評点1.08

D:1人 E:11人

計画を前倒して実施することを期待して提言したが、至らなかつた



森町議会HP
検証・評価
詳細へ

町長に提言書を提出

令和元年度は、町内会長の皆さまから、町内会活動を行う上での組織運営の問題点等についてご意見をいただき、各常任委員会で調査・研究の上、意見をとりまとめ、町長に提言書を提出しました。その一部を紹介します。

第一常任委員会

提言

1 学校再編に伴い課題となる通学方法は、何よりも児童・生徒及び保護者目線で検討し、精神的・体力的負担軽減を図ること

2 学校、工場跡地利用は喫緊の課題である。地域振興の観点から、地域住民、地域団体等広く意見を聞き、速やかに活用方針を示すこと

3 町内会の再編、統合等に係る町への相談にあつては、課題の洗い出し、事例等の調査など相互に協力して対策を講じること



第一常任委員会



森町議会HP
提言詳細へ

第二常任委員会

提言

1 日本の農業形態が変化する中、土地利用の自由度を上げ、新たな価値を生むことが求められることから、農業実績の無い農地や、農業に不向きな農地は、非農地化を速やかに進めること

2 人口減少、空き家・空き地の増加は近年急速に進んでおり、早急な対策が必要である。特に移住定住の推進を目的とする定住推進課の役割は重要で、これまで以上に大胆な施策を展開するよう求める



第二常任委員会

みんなのこえ

小國神社古式舞楽保存会

当会は、昭和57年に国の重要無形民俗文化財に指定されたときに発足し、御例祭での舞楽奉奏に対する協力・支援をする活動をしています。

現在は、舞楽継承に理解を示す100名ほどの会員で構成され、技術の指導をする師匠会とともに舞楽を保存伝承しつつ、人格の育成を培い、神社及び地域の発展と隆昌を図っています。

殊に、子供舞の奉仕者は通学合宿を行い、舞楽習得と社会的規律や道徳を学んでいます。



十二段舞楽 太平楽

近年は御例祭での奉納のほか、各地の伝統芸能の公演にも参加をし、民俗芸能の持つ意義と真価を伝えるよう努めています。

多くの方に舞楽をご理解いただき、活動のご協力とご支援をさらに戴きたいと思っております。

連絡先

会長 打田文博(小國神社)
小國神社古式舞楽保存会
事務局
0538-89-7302

議会での新型コロナウイルス感染予防への対応

3月議会では、のべ21人の方が、議会へ足を運んでくださいました。

さて、今後の議会の傍聴ですが、新型コロナウイルス感染症が収束するまで、しばらくの間ご遠慮いただくことといたしました。

なお、議会の模様はYouTubeにて配信させていただく予定です。

是非、ご覧ください。



YouTube 森町議会

< 6月定例会の予定 >

6月11日(木)	本会議	初日
6月16日(火)	本会議	2日目
6月17日(水)	常任委員会	一般質問
6月25日(木)	本会議	一般質問
6月26日(金)	本会議	最終日

※会議の開始時間は午前9時30分です。

※日程が変更される場合もありますのでご了承ください。

新議員紹介

2月9日の補欠選挙の結果、新たに2名の議員が決まりました。



deguchi yutaka
出口 裕氏(栄町上)
初当選
第一常任委員会



kawaguchi kazuko
川岸和花子氏(大門)
初当選
第二常任委員会

ひとこと

新型コロナウイルスのパンデミックにより、静岡県を含めて緊急事態宣言が発令され、多方面に様々な影響が出ています。

私は、今年の2月から初めての議会活動に緊張の連続ではありますが、町政の運営の大変さと、同時に非常事態に対応するリーダーシップの大切さを感じています。

今こそ我々森町民一人一人が心を一つにする時だと思っています。不要不急の外出を自粛し、「3つの密(密集・密閉・密接)」を避けていただいで、こまめな手洗いやマスク着用で感染予防にご協力をお願いいたします。

(W・川岸)

議会だより編集委員会

委員長	根 幸男
副委員長	岡 野 豊
委員	加 藤 久幸
委員	岡 戸 章夫
委員	出 口 裕
委員	川 岸 和花子
発行責任者	議 長